

令和7年度 第1回豊田市福祉有償運送運営協議会議事録

日時:令和8年1月30日（金）

場所:東51会議室

出席委員：樋口恵一（協議会議長）、和田稔、小島康史（代理：加藤水竹）

山岸みのり、加藤真司（介助者1名）、上村理恵、山田慎児、福岡進太
(8名中8名出席)

事務局：近藤担当長、眞井主事

登録団体：一般社団法人ミニッツ、NPO法人はなかご、豊田ハンディキャブの会、
NPO法人視覚障害者センターツエの里

1 開会

2 あいさつ

3 議事

協議事項1 豊田市福祉有償運送運営協議会設置要綱の改正について（協議）

事務局 (資料に基づき説明)

樋口議長 ・協議会設置要綱の改正について、御意見があれば伺いたい。

加藤委員 ・要綱改正内容について、公平性を確保するため庁外の樋口先生を会長とした
が、会長代理を障がい福祉課長とするのは、矛盾が生じるのではないか。

事務局 ・会長は、原則として樋口先生にお願いをするが、事故等により会議の運営が困
難となる場合に限り、会長代理が職務を代行するものであり、緊急的な対応と
して位置付けている。

樋口議長 ・他に意見がなければ、豊田市の福祉有償運送の必要性について、採決を取りた
い。

・

【採決：出席委員全員が「賛成】

樋口議長 ・それでは、豊田市の福祉有償運送の必要性については、原案のとおり承認され、
協議が調ったものとする。

協議事項2 豊田市における福祉有償運送の現状について（協議）

事務局 (資料に基づき説明)

樋口議長 ・豊田市の福祉有償運送の現状について、御意見があれば伺いたい。

山田委員 ・2点確認したい。

- ① 障がい者に対する福祉有償運送の PR や情報提供を、現在障がい福祉課で行っているか。
- ② 「NPO 等による福祉有償運送実施状況」に記載の事故について、けが人はいたか。
- 事務局
- ① お問い合わせがあった際に情報提供を行っているほか、ホームページにも福祉有償運送に関する情報を掲載している。ただし、基本的に事業所を利用されている方を対象に運行されているため、大きく PR は行っていない。
 - ② けが人は無し。
- 豊田ハンディキャブの会
- ・移送サービス事業の利用回数が令和元年から 5 年にかけて減少しているが、主な理由はあるか。
- 事務局
- ・詳細な分析はできていないが、車両数に限りがある中で長距離移送が増加しており、車両の拘束時間が長くなることで、全体の回数が減少している可能性がある。データを見直し、検証していく必要がある。
- 樋口議長
- ・そもそも移送サービスとは何か。
- 事務局
- ・障がい者施設の送迎車両の空き時間を活用したサービスであり、日常的に車いすを利用している方を対象としている。豊田市内に限定し、片道 500 円で運行している。名鉄東部交通株式会社と委託契約を締結している。
- 樋口議長
- ・他に意見がなければ、豊田市の福祉有償運送の現状について、採決を取りたい。

【採決：出席委員全員が「賛成】

- 樋口議長
- ・それでは、豊田市の福祉有償運送の必要性については、原案のとおり承認され、協議が調ったものとする。

協議事項 3 福祉有償運送実施事業者の更新登録申請について（協議）

- 事務局
- （資料に基づき説明）
- 樋口議長
- ・その他、更新登録申請のあった 2 団体について、御意見があれば伺いたい。
- 山田委員
- ・今回の更新で、はなかごの価格設定が「5 km未満は 600 円、5 km以上は 700 円」と変更されている。一方、タクシー運賃は「初乗 1.05 kmまで 650 円、加算 228mごとに 100 円」であり、1.05 km以下の場合、福祉有償運送の規定である「タクシー運賃の 8 割以内」を上回る。実際の移送距離はどの程度か。
- はなかご
- ・最低でも 12 kmの移送を行っており、5 km未満での移送はほとんどない。
- 樋口議長
- ・他に意見がなければ、豊田市の福祉有償運送実施事業者の更新登録申請について、認めるか否か採決を行いたい。

【採決：出席委員全員が「認める】

- 樋口議長
- ・それでは、豊田市の福祉有償運送実施事業者の更新登録申請については、原案のとおり承認され、協議が調ったものとする。

4 その他（各登録団体の現状や課題について）

- 樋口議長 ・今回、登録団体の方が多数参加している。現在の福祉有償運送の状況や課題について教えていただきたい。
- ミニッツ ・生活介護事業に付随して福祉有償運送を実施している。中山間地域で高齢者が多く、「ごみ捨てに行きたい」、「バス停までの少しの間乗せてほしい」という声が多い。しかし、会員制のため会員でない方を断らざるを得ず、送ってあげたい気持ちがあっても、気軽に対応できないジレンマがある。
- 豊田ハンディキャブの会
はなかごつえの里 ・対面で利用者にヒアリングを行い、さまざまな声を聞いている。利用者からは必要性を強く感じる声が多く、今後も継続して事業を実施していきたい。
- 加藤（眞）委員
事務局 ・特になし。
- 加藤（眞）委員 ・当団体は、他の事業者と少し異なり「自家用車両運送」で運行している。同行援護のツールとして有償運送を実施しており、サービス費の収受はなく、運行代金のみ旅客から受け取っているため、利用者には料金が高く感じられやすい。そのため、規定上はタクシー運賃の8割以内で価格設定してもよいが、実際には値上げが難しく、運行経費は赤字となっている。
- 樋口議長 ・また、みよし市には300円で送迎できるサービスがある。豊田市とは、送迎範囲は異なるが、事業者の負担を軽減できるような新たな施策を検討してほしい。
- 樋口議長 ・タクシー券の金額を上げてほしい。
- 樋口議長 ・現在第5次ライフサポートプランを計画期間中であり、来年度が次期計画の策定期となる。全体の中で障がい者の移送についても整理する予定である。来年度にタクシー券の金額を変更することはできないが、本日いただいた意見は今後の計画策定の参考としたい。
- 樋口議長 ・障がいの程度による歩行困難度に応じたサービス設定ができれば、障がい者の移動手段の幅が広がる。また、タクシー券以外のサービスについても、計画策定の中で整理していただけるとよい。
- 樋口議長 ・今年の卒業研究で、障がい者や高齢者のタクシー券等による移送事業の実施状況を調べたところ、名古屋市が最も多く、豊田市は中位であった。
- 樋口議長 ・参考資料として提供することができる。

タクシー事業者からの意見

- 樋口議長 ・タクシー事業者の立場から、現状について意見をいただきたい。

- 加藤（水） 委員
- ・2000年代から福祉有償運送が始まっているが、登録団体の顔ぶれは大きく変わっていない。新たに登録する事業所があっても、赤字が続き事業を継続できず辞めてしまうケースが多い。
タクシー事業者としては、登録団体にはぜひ続けてほしいと考えている。
- 樋口議長
- ・三重県伊賀市や神奈川県相模原市では、事業者に対して運営費の補助金を交付している例がある。持続可能な仕組みをつくるためには、さまざまな工夫が考えられると思うので、豊田市でも一度検討していただきたい。

5 閉会